

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	兵庫医科大学
設置者名	学校法人 兵庫医科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
医学部	医学科	夜・通信	0	0	169	169	19	
薬学部	医療薬学科	夜・通信		0	25	25	19	
看護学部	看護学科	夜・通信		0	23	23	13	
リハビリテーション学部	理学療法学科	夜・通信		0		22	22	13
	作業療法学科	夜・通信			24	24	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p><医学部> https://www.hyo-med.ac.jp/files/20250612/e3633bfb34a6be601cea0345e85d102470a53e00.pdf</p> <p><薬・看護・リハ学部> https://www.hyo-med.ac.jp/files/20250612/cf5e2e67512c1a658f80f45aaea42190c9411c09.pdf</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	兵庫医科大学
設置者名	学校法人 兵庫医科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/organization/board_member/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	金融機関	2025.6.12 ～2028.6開催の定 時評議員会の終結 の時まで	財務関係等
非常勤	自治体	2025.6.12 ～2028.6開催の定 時評議員会の終結 の時まで	地域連携（病診）
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	兵庫医科大学
設置者名	学校法人 兵庫医科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><医学部></p> <p>医学部では、学部長より各科目責任者へシラバスを作成するよう依頼し、科目責任者は、学修成果と科目の関連及び作成要領をもとに、授業概要・授業計画を作成している。</p> <p>なお、授業概要には、目的・到達目標・概要・履修方法・成績の評価方法・評価基準・フィードバック方針・受講のルールなどを定め、授業計画には開講日時、担当教員、講義内容などを定めている。</p> <p>完成したシラバスは、学生が履修計画を立てられるよう3月中旬ごろにホームページにて公表している。</p> <p><薬学部・看護学部・リハビリテーション学部></p> <p>「WEB シラバス作成要領」に基づき、各科目責任者がシラバスを作成している。この要領には、WEB シラバスの入力手順や方法の他、入力必須項目（教育目標、達成目標、授業計画、成績評価の方法、授業計画詳細など）が記載されている。シラバス作成にあたっては、説明会を開催している。</p> <p>完成したシラバスは、学生の履修計画が立てられるよう3月中旬頃にホームページにて公表している。</p> <p>なお、成績評価の基準については、教務に関する規程において規定している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/education/curriculum/syllabus/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

<医学部>

科目責任者は、各科目の授業概要に記載している成績評価の方法・成績評価基準及び評価の原則・評価ガイドラインに基づき、学生の学修成果を評価している。

なお、各科目の学修成果は、大学としての学修成果をもとに各科目で作成している到達目標（アウトカム）を示す。

また、総括的評価として、総合進級試験、共用試験（CBT、Pre-CC OSCE、Post-CC OSCE）、卒業試験などを実施しており、一定の水準を保てるよう、教務委員会で厳格に管理している。

【学修成果に関する公表の方法】

<https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/education/curriculum/medicine/>

- ・学修成果
- ・学修成果と授業科目の関連
- ・評価の原則・評価ガイドライン 等を公表している。

<薬学部・看護学部・リハビリテーション学部>

科目責任者は、各科目のシラバスに記載されている成績評価の方法に基づき、学生の学修成果を評価し、教務に関する規程に規定されている成績評価の基準により単位を付与している。

また、学修意欲を把握するために、兵庫医科大学薬学部・看護学部・リハビリテーション学部修学の支援に関する法律等の施行に伴う学業成績・学修意欲の確認に係る取扱要領を定めている。

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><医学部></p> <p>GPA 制度については、「兵庫医科大学 医学部 GPA 制度に関する要領」において定めており、シラバスに明記し、ホームページにて公表している。</p> <p>また、算出方法についても次のとおり、同要領で定めている。</p> <p>【GPA の算出方法】</p> <p>年度 GPA=(履修登録科目の GP×当該科目の単位数)の当該年度の総和／当該年度の履修総単位数</p> <p><薬学部・看護学部・リハビリテーション学部></p> <p>GPA 制度については、「兵庫医科大学 薬学部・看護学部・リハビリテーション学部 GPA 制度に関する要項」において定めており、算出方法についても次のとおり、同要項で定めている。</p> <p>【GPA の算出方法】</p> <p>GP (f-strictGP) =(素点-55)／10 ただし、GP<0.5 は GP=0.0</p> <p>年度 GPA=(履修登録科目の GP×当該科目の単位数)の当該年度の総和／当該年度の履修総単位数</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><医学部></p> <p>https://www.hyo-med.ac.jp/files/20220323/07155c37a48da94c65027b4dce89ce6c93c0f10f.pdf</p> <p><薬学部・看護学部・リハビリテーション学部></p> <p>https://www.hyo-med.ac.jp/campus_life/support/scholarship/#studysupport</p>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

<医学部>

医学部は医師を養成する学部であることから、学位授与方針において、卒業時に医師として備えるべき資質を次のとおり策定している。

「医学部は、所定の単位を修得し、下記の学修成果を修めた学生に対して卒業を認定し、学士（医学）の学位を授与します。

1. 医師としての使命感を持って、保健衛生や社会福祉の向上に自立的に関与できる。
2. 兵庫県の多様な地域性を理解し、地域医療及び予防医学に基づいた行動ができる。
3. 修得した国際性と語学力を活用し、国際保健に積極的に関与できる。
4. 社会の仕組みと動静を理解し、支援扶助と社会の発展のために行動できる。
5. 本学への帰属意識を持ち、医師の職責に基づいて行動できる。
6. 生命の尊厳と医療倫理を遵守し、患者や生活者の視点で権利を守ることができる。
7. コミュニケーション能力を活用して信頼関係を築き、医療に携わる全ての人々と協調・協働することができる。
8. 患者や生活者の心身の苦痛について理解・共感し、医療に関わる問題に取り組むことができる。
9. 科学的探求心を持って生涯にわたり研鑽を続け、他者と共に学ぶ姿勢を維持できる。
10. 総合的・科学的に課題を捉えて先端的な情報・科学技術を活用することで、医療及び医学研究を最適化する能力がある。
11. 修得した医療の基本的な技能を活用でき、救急や危機管理に対応できる能力がある。
12. 良質で安全な医療の実践のために、医師としての基本的な知識がある。」

上記の内容は、シラバスに明記し、ホームページにて公表している。

卒業の認定については、医学部教授会において、学位授与方針に加えて兵庫医科大学学則に規定する「所定の課程を修了し卒業試験に合格した者」であるかを確認したうえで、卒業判定を行い、最終的に学長が卒業を認定している。

<薬学部・看護学部・リハビリテーション学部>

医療専門職者を養成する大学であることから、大学全体の卒業の認定方針において、卒業時に医療専門職者として備えるべき資質を次のとおり策定している。

「本学は、建学の精神に則り、以下の能力を獲得した学生に対して卒業を認定し、学位を授与します。

【社会の福祉への奉仕】

多職種連携・協働を実践できる。

予防医学・健康教育を実践し地域医療を支えることができる。

地域社会、国際社会への広い視野を有し、社会的責任を果たすことができる。

医療専門職者としての職責を自覚し、利他的な態度で医療・福祉を実現できる。

【人間への深い愛】

幅広い教養と心豊かな人格を有し、患者や生活者を全人的に捉えることができる。

患者や生活者のための医療を実践できる。

高い倫理性を有し医療安全に貢献できる。

優れたコミュニケーションにより、信頼関係・協力関係を築くことができる。

【人間への幅の広い科学的理解】

高い専門性と幅の広い知識と優れた技術を修得し、問題解決できる。

次世代の医療科学を担う創造性及び研究能力を有している。

発展する先端的な情報・科学技術を理解・活用できる。

生涯学び続けることができる。」

さらに、上記の大学全体の卒業の認定方針に基づき、各学部において卒業時に身につけるべき資質を卒業の認定方針において策定している。

卒業の認定は、各学部の教授会において、卒業の認定方針に加えて兵庫医科大学学則に規定する修業年限及び卒業に必要な修得単位を充足しているかどうかを確認したうえで、卒業判定を行い、最終的に学長が決定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/diploma-policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	兵庫医科大学
設置者名	学校法人 兵庫医科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/management/financial/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/management/report/
監事による監査報告(書)	ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/management/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画)	対象年度:2025年度)
公表方法:ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/management/report/	
中長期計画(名称:第4次中期事業計画)	対象年度:2023年度~2027年度)
公表方法:ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/management/report/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.hyo-med.ac.jp/about/activity/assessment/hyo-med/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.hyo-med.ac.jp/about/activity/assessment/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 医学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/undergraduate/medicine/outline/)</p> <p>(概要) 医学部は、豊かな人間性と高い倫理観を培い、医科学に関わる基本的な知識と技能を修得することによって人間を幅広く理解し、多様な医学領域及び種々の専門領域において実践する能力を獲得し、幅広い視野に立って社会の福祉へ奉仕できる有能有為の医師を養成します。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/diploma-policy/)</p> <p>(概要) 医学部は、所定の単位を修得し、下記の学修成果を修めた学生に対して卒業を認定し、学士（医学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師としての使命感を持って、保健衛生や社会福祉の向上に自律的に関与できる。 2. 兵庫県の多様な地域性を理解し、地域医療及び予防医学に基づいた行動ができる。 3. 修得した国際性と語学力を活用し、国際保健に積極的に関与できる。 4. 社会の仕組みと動静を理解し、支援扶助と社会の発展のために行動できる。 5. 本学への帰属意識を持ち、医師の職責に基づいて行動できる。 6. 生命の尊厳と医療倫理を遵守し、患者や生活者の視点で権利を守ることができる。 7. コミュニケーション能力を活用して信頼関係を築き、医療に携わる全ての人々と協調・協働することができる。 8. 患者や生活者の心身の苦痛について理解・共感し、医療に関わる問題に取り組むことができる。 9. 科学的探求心を持って生涯にわたり研鑽を続け、他者と共に学ぶ姿勢を維持できる。 10. 総合的・科学的に課題を捉えて先端的な情報・科学技術を活用することで、医療及び医学研究を最適化する能力がある。 11. 修得した医療の基本的な技能を活用でき、救急や危機管理に対応できる能力がある。 12. 良質で安全な医療の実践のために、医師としての基本的な知識がある。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/curriculum-policy/)</p> <p>(概要) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の達成のために、以下に示す方針にて教育課程の編成と実施を行います。</p> <p>【教育課程編成方針】 以下に示すものを目標としたカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師としての基本的素養の育成 2. 国際性の涵養 3. リサーチマインドの養成 4. 最先端の技術を取り入れるための能力の養成 5. 自己啓発、自己研鑽の態度の涵養

6. 医療リーダーとして活躍できる能力の養成
7. 本学への帰属意識を持ち、地域及び社会全体にて活躍できる能力の養成
8. 患者の視点に立った全人的医療の遂行能力の養成
9. 保健衛生、社会福祉、国際保健に貢献できる能力の養成

【実施方針】

1. 幅の広い教養を身に付けるため、関西学院大学で多彩な人文社会系科目を修得します。
2. 国際性と語学力を養うため、少人数での英会話教育、医学英語教育、英語のみで実施される臨床科目、英文による試験出題、海外の学術交流に関する協定校等との交換留学プログラムなどを実施し、国際保健の教育を実施します。
3. チーム医療を遂行する優れた協調精神を養うため、本学 4 学部及び関西学院大学合同のチーム医療演習を実施します。
4. 本邦並びに兵庫県の医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、医療の均てん化・地域医療を理解するため、ささやま医療センターにおける臨床実習を実施します。
5. 地域医療への貢献及び本学への帰属意識と愛着を深める体験や実習を行います。
6. 豊かな人間性を育み、患者に寄り添う医師を養成するため、体系的な早期臨床体験実習を実施します。
7. 患者及びその家族の人権を守り、医師の義務や医療倫理を遵守し、患者安全を図るため、継続的に倫理教育を科目化して実施します。
8. 人間の多様性と多様な考え方を理解するため、多彩な患者、コメディカル、他学部生や関西学院大学の学生などと幅広い交流を行い、第 1 年次から第 4 学年次まで継続してコミュニケーション教育を実施します。
9. 患者の痛み、苦しみを理解するため、体系的に痛み教育を行います。
10. 入学前に培われた基本的素養を活かし、リメディアル教育、アカデミックリテラシー教育、理数系基礎教育、医学への準備教育及び基礎医学教育を段階的に行い、生命科学の基本概念を修得するとともに学修能力を向上させ知的好奇心を涵養します。
11. 人体についての基礎的な知識並びに様々な疾病に対する基礎的な治療法を身に付けるため、医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した統合カリキュラムと診療参加型実習を導入します。
12. 患者の持つ様々な問題点を統合的に捉え解決できる応用力と問題解決能力を養うため、チーム基盤型学修を実施します。
13. 最先端の医学的知見を教育し、研究を遂行する意欲と基礎的素養を涵養するため、研究室配属を実施し、さらに研究コースを設けます。
14. 適切なコミュニケーション能力、基本的な診察法、医療技術、実践的治療法、救命救急法の修得のため、低学年における患者接触を含め約 72 週のベッドサイド教育を実施します。
15. 予防・先制医療から在宅医療・看取りまですべての医療の時間軸を理解し、プライマリ・ケアを学修します。
16. 生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を養うため、レベルアップ選択科目並びに自由選択実習を実施し、また同僚や後輩への教育機会を創出するため、ピアサポート制度並びに屋根瓦方式の臨床実習を実施します。
17. 医療及び医学研究遂行に必要な ICT 教育を行います。

【評価方法】

各科目のシラバスに記載された方針にて評価を行います。臨床実習へ向けた評価においては、CBT、OSCEにて行います。第一、第三学年次を除く各学年においては、それぞれ総合的な試験により評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/admission-policy/>)

(概要)

医学部は、建学の精神に則した、医学に関する課程を修め医師として将来の社会に貢献できる資質と能力を備えた人物を求めます。

◆求める人物像

1. 医師となることについて明確な目的と情熱を持っている人
2. 医学教育プログラムに対応できるしっかりとした基礎学力を有する人
3. 豊かな教養と人間性を有する人
4. 病める人に対する思いやりを持ち、痛みに関感できる感性を持つ人
5. 自己犠牲の精神と社会に奉仕する精神を持つ人
6. 常に努力を怠らない強い向上心を持ち、自ら進んで学修し、生涯にわたって自己啓発・自己学修・自己の健康増進を継続する意欲のある人

【知識・技能】

- ・高等学校卒業レベルの基礎的な学力を有している

【思考力・判断力・表現力】

- ・高い倫理性を有し、良心に従い行動できる
- ・自分の考えや行動に責任を持ち、それを周囲に明確に示すことができる
- ・知識、技能をわかりやすく伝えることができる

【主体性・多様性・協働性】

- ・多様な価値観を理解でき、相手の立場に立って接することができる
- ・協調性に富み、周囲の人と十分なコミュニケーションを取ることができる
- ・科学への好奇心を有し、疑問に対して積極的に追求できる

◆選抜方式

このような入学者を選抜するために、総合型選抜、学校推薦型選抜及び一般選抜を実施します。

(総合型選抜：一般枠、卒業生子女枠、国際バカロレア枠)

兵庫医科大学医学部での学びを通じ、社会に貢献する強い意志を有し、主体性を持って多様な人々と協働して学び多職種連携を推進する適性を有する人材を募集します。募集にあたり、以下の項目を試験します。

適性検査では、医学を学ぶのに必要な基礎学力を計ります。小論文試験では、論理的思考力、表現力を中心に計ります。プレゼンテーション試験では、科学的・論理的思考力、判断力、表現力、プレゼンテーション能力を計ります。面接試験では、多職種連携への理解、目的意識、コミュニケーション能力や倫理性を計ります。調査書では、課外活動を含めた高等学校での勉学の状況をもとに学力の3要素を計ります。自己推薦書では、志望する強い意欲を確認します。適性検査、小論文試験、プレゼンテーション試験、面接試験、調査書、自己推薦書などを多面的、総合的に判定します。

(総合型選抜：エキスパート養成入試)

兵庫医科大学医学部での学びを通じ、主体性を持って多様な人々と協働して学び多職種連携を推進する適性を有し、不足が見込まれる診療科医師のエキスパートとして社会への貢献を強い意志を有する人材を募集します。募集にあたり、以下の項目を試験します。

適性検査では、医学を学ぶのに必要な基礎学力を計ります。小論文試験では、論理的思考力、表現力を中心に計ります。プレゼンテーション試験では、志望する診療科への意欲とともに、判断力、表現力、プレゼンテーション能力を計ります。面接試験では、多職種連携への理解、目的意識、コミュニケーション能力や倫理性を計ります。調査書では、課外活動を含めた高等学校での勉学の状況をもとに学力の3要素を計ります。志望理由書では、志望する強い意欲を確認します。適性検査、小論文試験、プレゼンテーション試験、面接試験、調査書、志望理由書などを多面的、総合的に判定します。

(学校推薦型選抜)

充実した高校生活を送り、全教科にバランスの取れた学力と優れた人間性を有する人材を求めます。高等学校で多様な活動をした方、個性的な活動をした方も歓迎します。なお、学校推薦型選抜(地域指定制)では、上記に加え地域医療に対する理解・意欲を有する人材を求めます。

適性検査では、医学を学ぶのに必要な基礎学力を計ります。小論文試験では、論理的思考力、表現力を計ります。面接試験では、目的意識を中心に主体性、コミュニケーション能力や倫理性、表現力を計ります。調査書では、課外活動を含めた高等学校での勉学の状況をもとに学力の3要素を計ります。適性検査、小論文試験、面接試験、調査書などを多面的、総合的に判定します。

(一般選抜)

一般選抜 A (4科目型) では、社会人、他学部卒業生を含めて、医師を目指す情熱のある、十分な学力を有する人材を求めます。一般選抜 B (英語資格試験活用型) では、上記に加えて、英語力を生かし国際的に活躍する意欲を有する人材を求めます。

一般選抜 A において、学力試験で医学を学ぶのに必要な学力を計ります。小論文試験では、論理的思考力、表現力を計ります。面接試験では、目的意識を中心に主体性、コミュニケーション能力や倫理性、表現力を計ります。調査書では、課外活動を含めた高等学校での勉学の状況を中心に学力の3要素を計ります。学力試験、小論文試験、面接試験、調査書などを多面的、総合的に判定します。

一般選抜 B において、英語資格試験にて、4技能にわたる英語力を計ります。学力試験で医学を学ぶのに必要な学力を計ります。小論文試験では、論理的思考力、表現力を計ります。面接試験及び課題型面接試験では、目的意識を中心に主体性、コミュニケーション能力や倫理性、表現力を計ります。調査書では、課外活動を含めた高等学校での勉学の状況を中心に学力の3要素を計ります。学力試験、小論文試験、面接試験、調査書などを多面的、総合的に判定します。

なお、調査書を準備できない場合は、代替の書類や面接試験などを用いて、評価・判定します。

◆評価・判定の基準

いずれの選抜においても、求める人物像で示す資質・能力を有し、医師を目指す学生として十分な学力を有するかを基準として、多面的、総合的に合否の判定を行います。試験項目において極端に低い項目がある場合は不合格となることがあります。また、合格と判定された学生に対しては、初年次の授業科目の履修に必要な学習活動に継続して取り組むことを求めます。

- ◆入学するまでに習得が望まれる教科・科目等
- 数 学 : 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B(数列)、数学C(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)
- 外国語 : 英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ
- 理 科 : 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物
- 情 報 : 情報Ⅰ
- その他 : 基礎的な読解力、表現力、判断力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、論理的思考力、分析能力、社会の仕組みの理解と変化する社会情勢に対応する能力

【選抜方式と学力の3要素の対応】

【医学部】

選抜方式	評価方法	① 知識・技能	② 思考力・判断力・表現力	③ 主体性・多様性・協働性
総合型選抜： 一般枠、卒業生 子女枠、国際バ カロレア枠	適性検査	◎	◎	
	小論文		◎	◎
	調査書	○	○	○
	自己推薦書			○
	プレゼンテーション 試験	◎	◎	
	個人面接 推薦書		◎ △	◎ △
総合型選抜： エキスパート 養成入試	適性検査	◎	◎	
	小論文		◎	◎
	調査書	○	○	○
	志望理由書			○
	プレゼンテーション 試験		◎	◎
	個人面接 推薦書		◎ △	◎ △
学校推薦型選 抜	適性検査	◎	◎	
	小論文		◎	◎
	個人面接		◎	◎
	調査書	○	○	○
	推薦書			△
	自己推薦書			△
一般選抜	学力試験	◎	◎	
	小論文		◎	◎
	調査書	○	○	○
	個人面接		◎	◎
	課題型面接		◎	◎
	英語資格検定試験	◎		

◎：特に重視する、○：重視する、△：参考にする

<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/undergraduate/pharmacy/outline）</p>
<p>（概要）</p> <p>薬学部は、物質と生体に関する正しい知識と研究を通して得られる問題解決能力を基盤としつつ、生命の尊厳を畏敬し、人々の健康と幸福を真に願う医療専門職者としての明確な意識のもとに、多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる薬剤師を養成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/diploma-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>薬学部は、所定の単位を修得し、下記の能力を獲得した学生に対して卒業を認定し、学士(薬学)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人に必要な豊かな人間性、生命の尊厳を尊重する高い倫理観、医療・保健・福祉・介護・公衆衛生を担う薬剤師としての使命感と責任感を有し、患者・生活者の権利と利益を守り、利他的な姿勢で人々の健康と幸福に貢献する人間力を有する。 2. 患者・生活者の立場を尊重したコミュニケーションをはかり、他の医療職と連携・協力して、質の高い患者・生活者中心の医療・福祉・公衆衛生に取り組む能力を有する。 3. 化学物質や生体に関する専門知識及び疾患や医薬品に関する薬学的知見を総合的に活用し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景を理解したうえで、個々の患者に最適化された薬物治療や処方提案などの薬学的管理を実践する能力を有する。 4. 地域の医療・保健・福祉等に関する知識を活用し、地域住民の健康増進、公衆衛生の向上、感染制御、環境保全に貢献する能力を有する。 5. 研究活動に対する意欲と研究に求められる技能・情報収集力・論理的思考力・科学的探究心を備え、薬学や医療に関わる課題発見・問題解決能力を有する。 6. 医療の高度化・多様化及び情報・科学技術の進展に対応するため、生涯にわたって自律的に学び続ける自己研鑽力を有する。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/curriculum-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で要求される能力を修得するために、本学が独自に設定した次の授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養と豊かな人間性を涵養する科目を配置します。 2. 薬剤師に必要な倫理観、使命感、責任感を涵養する科目を配置します。 3. チーム医療の中で、連携協力し合う能力を培う統合型科目を配置します。 4. 薬物治療を実践するために薬剤師に必要なコミュニケーション能力を養成する科目を配置します。 5. 基礎薬学から臨床薬学まで、薬剤師として必要な知識・技能を養成する科目を配置します。 6. 地域の医療・保健・福祉等に関する知識を修得し、地域住民の健康増進、公衆衛生向上等に結び付ける能力を養成する科目を配置します。 7. 科学的探求心を培い、薬学や医療における課題発見・問題解決能力を養成するための研究科目を配置します。 8. 生涯を通して学び続ける自己研鑽能力を培うための科目を配置します。

【教育課程編成方針】

卒業時に求められる学修成果を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成します。

1年次には、基礎となる高大接続科目を配置します。

早期から幅広い教養、人間性、倫理観、使命感、責任感を涵養するため、低学年次から人文・社会・自然科学などの教養科目やヒューマニズム教育科目を配置します。

キャリアイメージを早期に確実なものとするために、1年次から基礎薬学系科目・専門科目を配置し、各年次において段階的に発展させるように配置します。

医療人としての意識づけや態度教育を行うため、多職種連携教育科目やコミュニケーションに関する科目は、複数年次にわたって継続的・発展的に配置します。

科学的探求心を培うため、2、3年次に実習科目を配置します。

実務実習への準備教育として、3年次から臨床薬学系科目を配置します。

薬学的知識を総合的に活用する能力を養成するために、5年次を中心に薬局実務実習及び病院実務実習を配置します。

課題発見・問題解決能力、自己研鑽能力を高めるために、4年次から研究実習・演習科目を配置します。

【実施方針】

講義・演習の他に、学修効率の向上及び能動的学修態度の形成、コミュニケーション能力の養成などを目的として、グループ学修、問題基盤型学修、チーム基盤型学修など参加型学修を積極的に取り入れます。論理的思考力と科学的探求心を培うために、実習科目や研究実習・研究研修を取り入れます。さらに、医療施設等と連携して、参加・体験型実務実習等を実施します。また、授業科目に関連する医療施設・薬事衛生施設・企業の見学、学識経験者や薬害患者などの招聘講義、医療専門職者・模擬患者の授業参加を取り入れます。

【評価方法】

紙面での試験、レポート評価のほか、技能・態度の評価、ピア評価、口頭試問、プレゼンテーションなど多角的な視点で評価します。

【学修成果の評価】

各学年次でのディプロマ・ルーブリック評価や科目内のディプロマ・ポリシーに関連するパフォーマンス評価を用いて、ディプロマ・ポリシーに掲げた資質・能力の達成度を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/admission-policy/>)

（概要）

薬学部は、建学の精神に則した薬学に関する課程を修め、薬剤師として将来の社会に貢献できる資質と能力を備えた人物を求めます。

◆求める人物像

薬学部において、薬と生体についての専門的な知識、薬を正しく取り扱うことのできる正確な技術、実践的なコミュニケーション能力を修得し、豊かな人間性と高い倫理観を備えた薬のプロフェッショナルとして活躍したいという意欲を持っている人

1. 高等学校における学習・課外活動を通じ、基礎的な学力とコミュニケーション能力を身につけている人
2. 医療や自然科学に興味があり、薬学を学ぶ意欲と態度を有している人
3. 論理的に思考・判断し、自分の考えや気持ちを他者に伝えることができる人
4. 向上心をもって、自ら学び続け、新しいことに挑戦できる人
5. 薬剤師として、病院や薬局などでチーム医療や地域医療に貢献したい人
6. 薬学研究者・教育者として、企業、研究機関、大学などで活躍したい人

【知識・技能】

- ・高等学校卒業レベルの理科、数学、英語の基礎学力を有している

【思考力・判断力・表現力】

- ・根拠に基づき、物事を論理的に考え、判断できる
- ・他者の立場や意見を理解し、自分の考えを分かりやすく伝えられる

【主体性・多様性・協働性】

- ・自ら進んで、新しいことに挑戦できる
- ・他者を尊重し、多様な人々と協力して行動できる

◆選抜方式

このような入学者を選抜するために、総合型選抜、学校推薦型選抜、及び一般選抜を実施します。

(総合型選抜)

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つの要素を総合的に評価する選抜方式です。高等学校で身につけた知識や思考力等を評価する適性検査に加え、技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を評価する実習・演習の課題試験や探究活動に関するプレゼンテーション試験を行います。さらに、調査書や面接、英語検定資格等を組み合わせて多面的・総合的に評価・判定します。

(学校推薦型選抜)

「主体性・多様性・協働性」を重視した選抜方式です。出身高等学校長の推薦書と調査書に基づく評価に加え、薬学を学ぶ上で必要な知識や思考力等を評価する適性検査も行い、多面的・総合的に評価・判定します。とりわけ、化学については、より高度な薬学的知識を修得するための基礎となる学問であり、十分な学力を有しているかを評価します。

(一般選抜)

学力試験を中心に実施する選抜方式です。薬学を学ぶ上で必要となる科目の試験を行い、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」を評価・判定します。とりわけ、化学については、より高度な薬学的知識を修得するための基礎となる学問であり、十分な学力を有しているかを評価します。一般選抜は学力試験に比重をおいた判定を行います。一部の日程では多様な人材を求めることから、小論文、調査書並びに活動報告書を含め多面的、総合的に判定します。

◆評価・判定の基準

いずれの選抜方式においても、求める人物像で示す資質・能力・情熱等を有し、薬剤師や薬学に関連する職種を目指す学生として十分な学力を有するかどうかを基準として、合格の判定を行います。また、合格と判定された学生に対しては、初年次の授業科目の履修に必要な学修活動に継続して取り組むことを求めます。

◆入学するまでに習得が望まれる教科・科目等

以下の科目に関する知識を有し、基礎的な内容を理解していることを求めます。

理 科：化学基礎・化学、生物基礎、物理基礎

数 学：数学 I、数学 II、数学 A

英 語：英語コミュニケーション I、英語コミュニケーション II、論理・表現 I

【選抜方式と学力の3要素の対応】

選抜方式	評価方法	①知識・技能	②思考力・ 判断力・ 表現力	③主体性・ 多様性・ 協働性
総合型選抜	適性検査	○	◎	△
	実習・演習課題	○	◎	○
	個人面接	△	◎	◎
	学習・活動計画書	△	◎	◎
	調査書	○		
	自己推薦書	△	○	○
	プレゼンテーション (質疑応答含む)	○	◎	◎
	探究活動概要説明書	○	◎	◎
	英語検定資格	◎	○	△
学校推薦型選抜	適性検査	◎	◎	
	調査書	○	△	○
	個人面接	△	◎	◎
	推薦書	△	△	○
	自己推薦書	△	○	○
一般選抜	学力試験	◎	◎	
	調査書	○		
	活動報告書	△	◎	◎
	小論文	△	◎	○

◎：特に重視する、○：重視する、△：参考にする

学部等名 看護学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/undergraduate/nursing/outline ）
（概要） 看護学部は、倫理観に富んだ人間愛を基盤とし、高度化・複雑化する医療現場に対応できる確かな看護実践能力を育み、他職種と連携のもとに、人々が地域社会で自律し最適な生活を営むことを支援できる看護専門職者を養成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/diploma-policy ）
（概要） 看護学部は、所定の単位を修得し、下記の能力を獲得した学生に対して卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与します。 1. 地域社会、国際社会への広い視野を有し、看護専門職者としての社会的責任を果たすことができる。 2. 多職種の専門性及び役割を理解し、看護職の専門性を活かして連携・協働ができる。 3. 看護の対象者を全人的に理解し、人間及び生命の尊厳に対して真摯に向き合うことができる。 4. 高い倫理性を有し対象者の権利擁護と医療安全に貢献できる。 5. 看護の対象者及び多職種と信頼関係・協力関係を築くことができる 6. 専門分野における幅広い知識と技術を修得し、人々の最適な健康に向けて看護を提供することができる。 7. 次世代の看護学を担う創造性と基礎的研究能力を有し、生涯学びつづけることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/curriculum-policy ）
（概要） 看護学部は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成することのできる人材を育成するために、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。 【教育課程編成方針】 1. 教育課程を「基礎分野」と「専門基礎分野」、「専門分野」の3分野から構成します。 2. 看護学の「人間」「健康」「環境」「看護」のメタパラダイム概念及び人間の成長・発達、療養環境に応じた看護をもとに、これらの内容を含んだ科目を効果的かつ体系的に編成します。また、学年進行にともなって基礎分野から専門基礎分野、専門分野へと積み上がるように科目をバランスよく配置します。 3. 看護実践能力を効果的に育成するために講義・演習・学外実習を織り交ぜた授業形態で編成します。また、段階的・発展的に看護実践能力を学修できるように各年次に学外実習を配置します。 【実施方針】 授業は、学修効率の向上、及び能動的学修態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義の他に、グループ学修、問題基盤型学修、チーム基盤型学修など参加型学修方法を積極的に取り入れます。さらに、授業科目に関連する学識経験者などの招聘講義、当事者・模擬患者の授業参加を取り入れます。 学内演習は、シミュレーション教育を取り入れ、シミュレーター人形の活用、模擬病室（実習室）の設置などにより積極的に実践的学修方法を展開します。 学外実習は、臨地において知識・技術・態度の統合を図るため、教員・臨床指導者の指導のもとに看護実践を展開します。

1. 人間を取り巻く環境と健康に関わる医学・保健学・福祉学など近接学問領域の幅広い知識や技術を養成する科目
2. チーム医療に必要な知識と協働する力を養成する科目
3. 人間の多面的な理解を深めるための幅広い教養を身に付ける科目
4. 医療専門職者として人の価値観を尊重できる態度と倫理観を育む科目
5. 看護学における専門知識と基本技術を養成し、論理的思考力や問題解決力を身に付ける科目
6. 看護学の対象となる人間の成長・発達、療養環境に応じた看護の専門科目
7. 国際的な視点から看護を探究し創造する力を育む科目

【評価方法】

成績評価方法は、紙面での試験、レポート評価のほか、実技試験、学修態度の評価、ピア評価など多角的な視点で評価します。学外実習に関しては、対象の理解、看護技術の確実性、倫理に基づく看護実践についても評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/admission-policy/>)

（概要）

看護学部は、建学の精神に則した看護学に関する課程を修め、看護専門職者として将来の社会に貢献できる資質と能力を備えた人物を求めます。

◆求める人物像

1. 看護専門職者として、人々の健康と幸福のために貢献しようという明確な意志を持っている人
2. 社会と人の暮らしに関心を持ち、多様な文化や価値観を理解しようとする姿勢を有している人
3. 他者と協力してものごとに取り組むことができる人
4. 他者に対する思いやりを持ち、他者の思いに共感できる感性を持っている人
5. 社会の一員としての自覚を持ち、その役割を果たすことができる人
6. 目標に向かって主体的に努力を惜しむことなく取り組むことができる人

【知識・技能】

- ・看護学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力を有している

【思考力・判断力・表現力】

- ・論理的にものごとを考え、表現する力を有している

【主体性・多様性・協働性】

- ・他者を理解し、協調しようとする姿勢を身に付けている
- ・看護専門職者になる強い意志を持ち、人間や健康に関心を持ち続けることができる
- ・自らの目標達成のために努力しやり遂げる意志がある

◆選抜方式

このような入学者を選抜するために、総合型選抜、学校推薦型選抜、及び一般選抜を実施します。

（総合型選抜）

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つの要素を総合的に評価する選抜方式です。看護学を学ぶうえで求められる思考力と判断力を中心に評価する適性検査に加え、多様な意見や他者への尊重が求められる状況での思考力や判断力、表現力、課題解決に向けた協働性を評価する実習・演習課題試験を行います。あるいは、探究活動における主体性、科学的な思考力と判断力、探究成果を的確に伝える表現力を評価するプレゼンテーション試験を行います。さらに、社会貢献への意欲に加えて、質疑応答における思考力や表現力を評価する面接試験を行います。これらの適性検査、実習・演習課題試験、プレゼンテーション試験、面接試験、調査書、英語検定資格などを多面的・総合的に評価・判定します。

（学校推薦型選抜）

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つの要素を評価する選抜方式です。看護学を学ぶうえで求められる基礎的な学力を評価する適性検査を行います。また、一部の日程では思考力、表現力を評価する小論文試験を行います。調査書では、高等学校での学習状況をもとに学力を評価しつつ、課外活動等の状況から主体性・多様性・協働性を評価します。これらの適性検査、小論文試験、調査書などを多面的・総合的に評価・判定します。

（一般選抜）

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を重視して評価する選抜方式です。看護学を学ぶうえで求められる知識や思考力、判断力について本学独自の学力試験、もしくは大学入学共通テストを利用して評価します。文系・理系によらず、十分な学力を修得した人材を幅広く募集します。また、一部の日程では思考力、表現力を評価する小論文試験を行い、調査書並びに活動報告書を含めて多面的・総合的に評価・判定します。

◆評価・判定の基準

いずれの選抜方式においても、求める人物像で示す資質・能力を有し、看護専門職者を目指す学生として十分な学力を有するかどうかを基準として、可否の判定を行います。また、合格と判定された合格者に対しては、初年次の授業科目の履修に必要な学修活動について、主体的に継続して取り組むことを求めます。特に、入学後の学修活動に強く関連する生物、国語、英語については、入学前学習の対象科目として重要です。

◆入学するまでに習得が望まれる教科・科目等

数 学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学 A

外国語：英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰ

理 科：化学基礎・化学、生物基礎・生物、物理基礎

国 語：現代の国語、論理国語

情 報：情報Ⅰ

その他：基礎的な読解力、表現力、判断力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、論理的思考、分析力、社会の仕組みに対する関心と理解に関連する科目

【選抜方式と学力の3要素の対応】

選抜方式	評価方法	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体性・多様性・協働性
総合型選抜	適性検査	○	◎	△
	実習・演習課題	△	◎	◎
	個人面接	△	◎	○
	学習・活動計画書	△	◎	○
	調査書	○		
	自己推薦書	△	○	◎
	プレゼンテーション (質疑応答含む)	△	◎	◎
	探究活動概要説明書	△	○	◎
	英語検定資格	◎	○	△
学校推薦型選抜	適性検査	◎	○	
	小論文	△	◎	○
	調査書	○	△	◎
	推薦書	△	△	△
一般選抜	学力試験	◎	◎	
	調査書	◎		
	活動報告書	△	○	◎
	小論文	△	◎	○

◎：特に重視する、○：重視する、△：参考にする

学部等名 リハビリテーション学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ

<https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/undergraduate/rehabilitation/outline>）

（概要）

リハビリテーション学部は、全ての人に対して敬愛の念を持ち、理学療法学及び作業療法学を中心とする幅広い学問を基盤として、リハビリテーションの理念と総合的実践力をもって、人々の幸福と共生に奉仕する倫理観に富んだ理学療法士及び作業療法士を養成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/diploma-policy>）

（概要）

リハビリテーション学部は、所定の単位を修得し、下記の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定し、理学療法学科では学士（理学療法学）、作業療法学科では学士（作業療法学）の学位を授与します。

1. 人々の幸福と健康に貢献するための行動ができる。
2. 地域社会から国際社会に至る多様な文化や価値観を理解できる。
3. チーム医療・地域医療を担う一員として、様々な専門職者と連携・協力できる。
4. 理学療法・作業療法を実践するために必要な医学・医療・保健・福祉・行政などについて理解できる。
5. 対象者の抱える問題に対応した基本的な理学療法・作業療法が実践できる。
6. 急性期から回復期、施設・在宅の生活期に至るそれぞれのフェーズの問題に対応できる。
7. 様々な領域の臨床的課題を解決するための取り組みを実践できる。
8. 継続的に自分の能力を磨き、他者とともに自己を高めていくことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ
<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/curriculum-policy>）

（概要）

「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。

【理学療法学科】

1. 理学療法士として必要な幅広い教養を培い人間性を育む科目
2. 理学療法士としての基本的態度を修得する科目
3. 理学療法を実践するために必要なひとを身体的精神的に・理解する科目及び様々な疾患・障害の知識を修得する専門基礎科目
4. 効果的な理学療法の実践に必要な専門知識と確かな技術を修得するための専門科目
5. 理学療法 of 専門的知識・技術を活かし多職種連携の中で活躍できる能力を培う統合科目
6. 継続的な自己研鑽を通じて先駆的な理学療法学へ発展させる能力を培う総合科目

【作業療法学科】

1. 作業療法士として必要な幅広い教養を培い人間性を育む科目
2. 作業療法士としての基本的態度を修得する科目
3. 作業療法を実践するために必要なひとを精神的・医学的に理解する科目及び様々な疾患・障害の知識を修得する専門基礎科目
4. 効果的な作業療法の実践に必要な専門知識と確かな技術を修得するための専門科目
5. 作業療法 of 専門的知識・技術を活かし多職種連携の中で活躍できる能力を培う統合科目
6. 継続的な自己研鑽を通じて先駆的な作業療法学へ発展させる能力を培う総合科目

編成方針、実施方針、成績評価方法については、両学科共通です。

【教育課程編成方針】

初年次前期には、大学での全教育課程を全うし医療専門職者となるために必要な素養を修得します。

教養を身に付ける科目、専門基礎科目、専門科目を原則的には初年次から 4 年次まで段階的に学べるように編成します。

理学療法士・作業療法士の職業イメージを確立するための専門科目（臨床実習を含む）、また、多職種連携能力を培うための科目などは、初年次から 4 年次まで継続的に配置します。

最終学年では、学修したすべての成果を統合し、卒業後も継続的に自己を高めることができる能力を修得する総合科目を配置します。

【実施方針】

授業の実施形態としては、学修効率の向上、能動的学修態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義の他に、グループ学修、問題基盤型学修、チーム基盤型学修などの参加型学修（学生が主体的に学修する方法）、オン・ザ・ジョブ・トレーニングを積極的に取り入れます。さらに、理学療法・作業療法に関連する施設や企業等の見学、学識経験者などを招いての講義、障害のある人・模擬患者の授業参加を取り入れることで、プロフェッショナリズムを涵養します。

【評価方法】

成績評価方法は、紙面での試験、レポート評価のほか、実技試験、学修態度の評価、ピア評価（学生同士の評価）など多角的な視点で評価します。学外実習では、理学療法士・作業療法士としての態度や人間関係のとり方、学修意欲についても評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

<https://www.hyo-med.ac.jp/about/mission/admission-policy/>）

（概要）

リハビリテーション学部は、建学の精神に則した理学療法学・作業療法学に関する課程を修め、理学療法士・作業療法士として将来の社会に貢献できる資質と能力を備えた人物を求めます。

◆求める人物像

1. 理学療法学科では理学療法士として、作業療法学科では作業療法士として、医療・保健・福祉などの分野に貢献しようという明確な意志を持っている人
2. 他者に対する思いやりを持ち、他者の悩みに共感できる感性を持っている人
3. 社会に対する関心と豊かな教養を有し、多様な価値観を受け入れられる人
4. 新たな問題の探索とともに、問題解決のために努力を惜しむことなく取り組める人
5. 常に努力を怠らない向上心を有し、自ら進んで学修し、生涯にわたって自己啓発・自己学修に取り組む意欲を有する人

【知識・技能】

- ・理学療法学あるいは作業療法学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力を有している

【思考力・判断力・表現力】

- ・物事を論理的に考えるための基本的思考力がある
- ・自分なりに物事を判断し、その理由を説明できる
- ・自分の気持ちや考えを他者に伝えられる

【主体性・多様性・協働性】

- ・目的意識をもち続け、自ら能動的に学修する行動がとれる
- ・自分と異なる意見や気持ちをもっている人に対する興味と、多様な価値観を理解しようとする姿勢を有している
- ・人とのコミュニケーションを大切にし、協調性をもって行動できる

◆選抜方式

このような入学者を選抜するために、総合型選抜、学校推薦型選抜、及び一般選抜を実施します。

（総合型選抜）

兵庫医科大学リハビリテーション学部での学びを通じて、社会に貢献する強い意志を有し、主体性をもって多様な人々と協働して学び多職種連携を推進する適性を有する人材を募集します。

適性検査では、理学療法学・作業療法学を学ぶのに必要な基礎的な思考力を中心に学力を計ります。実習・演習課題試験においては、他者とのコミュニケーション能力や協調性を計ります。探究活動に関するプレゼンテーション試験では、探究活動等で培った科学的思考力やプレゼンテーションでの表現力を計ります。面接試験では、本学の教育理念やアドミッション・ポリシーの理解、目的意識、意欲に加え、質疑応答を通して論理的思考力やコミュニケーション能力を計ります。調査書では、課外活動を含めた高等学校での勉学の状況をもとに学力の3要素の修得状況について計ります。適性検査、実習・演習課題試験、面接試験、調査書、英語検定資格などを多面的、総合的に判定します。

(学校推薦型選抜)

高等学校において、全教科に真面目に取り組み、バランスのとれた学力を有し、将来、医療従事者として活動が期待される優れた人間性を有する人材を募集します。また、高等学校で課外活動をはじめ積極的に多様な活動をした方を歓迎します。適性検査では理学療法学・作業療法学を学ぶのに必要な基礎学力を計ります。小論文試験では論理的思考力、表現力を計ります。調査書では、課外活動を含めた高等学校での勉学の状況をもとに学力の 3 要素の修得状況について計ります。

適性検査、小論文試験、調査書などを多面的、総合的に判定します。

(一般選抜)

一般選抜においては、理学療法学あるいは作業療法学を学ぶための基礎的な学力を修得した人を募集します。学力の確認には、本学独自の学科試験もしくは、大学入学共通テストを利用し計ります。一般選抜は学力試験に比重をおいた判定を行います。一部の日程では多様な人材を求めることから、小論文、調査書並びに活動報告書を含め多面的、総合的に判定します。

◆評価・判定の基準

いずれの選抜方式においても、求める人物像で示す資質・能力を有し、理学療法士・作業療法士を目指す学生として十分な学力を有するかどうかを基準として、可否の判定を行います。

また、合格した方には、初年次教育に向けて入学前教育に取り組んで頂くことを求めます。入学試験で課していない科目、高等学校で選択しなかった科目についても、入学前学習として主体的に取り組むことを求めます。特に、人の構造や機能等、入学後の学修活動に強く関連する「生物」と「物理」については、高等学校での学習内容を再確認することを求め、教育課題を設けます。

◆入学するまでに習得が望まれる教科・科目等

外国語：英語コミュニケーション I、英語コミュニケーション II、論理・表現 I

数 学：数学 I、数学 II、数学 A

理 科：化学基礎・化学、生物基礎・生物、物理基礎・物理

国 語：現代の国語、論理国語

情 報：情報 I

その他：基礎的な読解力、表現力、判断力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、論理的思考力、分析力、社会の仕組みに対する関心と理解

【選抜方式と学力の3要素の対応】

選抜方式	評価方法	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体性・多様性・協働性
総合型選抜	適性検査	○	◎	△
	実習・演習課題		◎	◎
	個人面接	△	○	○
	学習・活動計画書		○	○
	調査書	○		
	自己推薦書	△	○	○
	プレゼンテーション (質疑応答含む)	△	◎	◎
	探究活動概要説明書	△	○	◎
	英語検定資格	◎	○	△
学校推薦型選抜	適性検査	◎	○	
	小論文	△	◎	○
	調査書	○	△	◎
	推薦書	△	△	◎
	個人面接	△	○	○
	自己推薦書	△	○	○
一般選抜	学力試験	◎	○	
	調査書	◎		
	活動報告書	△	○	◎
	小論文	△	◎	○

◎：特に重視する、○：重視する、△：参考にする

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.hyo-med.ac.jp/about/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
医学部	—	72人	38人	76人	218人	0人	404人
薬学部	—	18人	8人	8人	15人	1人	50人
看護学部	—	16人	7人	10人	10人	3人	46人
リハビリテーション学部	—	10人	7人	9人	3人	1人	30人
b.教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			368人				368人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：教員一覧、教員業績データベース https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/education/teacher/ https://gyosekimf.hyo-med.ac.jp/					
c.FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
兵庫医科大学FD・SD推進室が各学部・研究科等と協力し、教育プログラムの改善を図るための組織的な研修および能力開発を含めた本学独自のFDを企画立案し、組織的に取り組んでおり、毎年、全教員がいずれかのFDに参加している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
医学部	112人	112人	100%	672人	702人	104.5%	0人	0人
薬学部	150人	115人	76.7%	900人	704人	78.2%	0人	0人
看護学部	100人	118人	118%	400人	457人	114.3%	0人	0人
リハビリテーション学部	80人	77人	96.3%	320人	332人	103.8%	0人	0人
合計	442人	422人	95.5%	2292人	2195人	95.8%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
医学部	109人 (100%)	0人 (0%)	108人 (99.1%)	1人 (0.9%)
薬学部	116人 (100%)	2人 (1.7%)	71人 (61.2%)	43人 (37.1%)
看護学部	108人 (100%)	1人 (0.9%)	106人 (98.1%)	1人 (0.9%)
リハビリテーション学部	87人 (100%)	1人 (1.1%)	85人 (97.7%)	1人 (1.1%)
合計	420人 (100%)	4人 (1.0%)	370人 (88.1%)	46人 (11.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p><医学部> シラバスにおいて各学年次の配当科目を一覧で示し、科目ごとに授業の方法及び内容並びに年間の授業計画を具体的に記載している。 (参考 URL : https://www.hyo-med.ac.jp/faculty/education/curriculum/syllabus/)</p> <p><薬学部・看護学部・リハビリテーション学部> シラバスにおいて授業科目ごとに授業の方法、内容及び年間の授業計画を具体的に記載している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p><医学部> 教育課程、成績評価、進級資格、卒業要件は、兵庫医科大学学則及び医学部の教務に関する規程に記載している。各科目の具体的な成績評価方法は、シラバスの授業概要に記載しており、科目責任者はシラバスに基づき学生の学修成果を評価し、単位を付与している。 卒業の認定については、医学部教授会において、学位授与方針に加えて兵庫医科大学学則に規定する「所定の課程を修了し卒業試験に合格した者」であるかを確認したうえで、卒業判定を行い、最終的に学長が卒業を認定している。</p> <p><薬学部・看護学部・リハビリテーション学部> 教育課程、成績評価、進級資格、卒業要件は、兵庫医科大学学則及び教務に関する規程に記載している。各科目の具体的な成績評価方法は、シラバスに記載しており、科目責任者はシラバスに基づき学生の学修成果を評価し、単位を付与している。 また、卒業の認定は、各学部の教授会において卒業の認定方針及び修得単位を充足しているか確認した上で判定を行い、最終的に学長が決定している。履修単位の登録上限については、教務に関する規程及び教務便覧の履修方法に明示している。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
医学部	医学科	249.5 単位	有・無	単位
薬学部	医療薬学科	195.5 単位	有・無	単位
看護学部	看護学科	133 単位	有・無	単位
リハビリテーション学部	理学療法学科	133 単位	有・無	単位
	作業療法学科	131 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.hyo-med.ac.jp/about/access/campus_map/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
医学部	医学科	2,200,000 円	2,000,000 円	(初年度) 4,300,000 円 (次年度以降) 3,500,000 円	実験実習費：1,000,000 円 施設設備費：1,300,000 円 教育充実費(初年度)： 2,000,000 円 教育充実費(次年度以降)： 1,200,000 円
薬学部	医療 薬学科	1,250,000 円	400,000 円	600,000 円	※2021 年度以前入学生 実験実習費：200,000 円 施設設備費：400,000 円
		1,500,000 円	200,000 円	400,000 円	※2022 年度以降入学生 施設設備費：400,000 円
看護学部	看護学科	1,100,000 円	300,000 円	500,000 円	※2021 年度以前入学生 実験実習費：200,000 円 施設設備費：300,000 円
		1,300,000 円	200,000 円	350,000 円	※2022 年度以降入学生 施設設備費：350,000 円
リハビリ テーション 学部	理学療法 学科	1,000,000 円	300,000 円	500,000 円	※2021 年度以前入学生 実験実習費：200,000 円 施設設備費：300,000 円
		1,200,000 円	200,000 円	350,000 円	※2022 年度以降入学生 施設設備費：350,000 円
	作業療法 学科	1,000,000 円	300,000 円	500,000 円	※2021 年度以前入学生 実験実習費：200,000 円 施設設備費：300,000 円
		1,200,000 円	200,000 円	350,000 円	※2022 年度以降入学生 施設設備費：350,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

<医学部>

「兵庫医科大学学生支援方針」に基づき、医学教育センターが中心となって、教務委員会、学生部委員会、学年担任、アドバイザー教員、ピアサポーターなどが協働し、学生の教育進捗や状況に応じた学修支援を行っている。

医学教育センターの専任教員は、低学年の臨床実習をはじめ、各学年の科目で科目責任者となっており、学生の成績を直接把握している。修学上の問題を抱える学生には、センター教員が随時個別に面談を行い、相談を幅広く受付けている。8月と12月にはGPAを用いて成績不良者のリストアップを行い、センター教員が個別面談と学修上の指導を行っている。留年した学生に対しては、留年決定後希望者に対して、次年度の授業が始まるまでに面談を行い、必要に応じて保護者を交えて、精神面や生活面も含めた相談に応じている。医学教育センターによる学生指導状況は、個人情報に配慮した上で定期的に教務委員会へ報告される。

第1～4学年次に学年担任教員を配置し、学修および学生生活に関する指導・助言を行っている。

第1学年次にはよりきめ細やかな支援を行うため、学生6～7人ごとにアドバイザー教員1名を配置し、入学からの1年間、定期的な懇談会・個人面談を通して交流を深め、学修だけでなく学生生活全般への指導・助言を行っている。必要な場合には、医学教育センター、学生相談室、学生保健室を紹介している。アドバイザー教員による懇談会や個人面談の記録は、年度の終わりに学生支援課へ提出し、必要に応じて進級後の生活、学修指導に用いている。

成績に悩む低学年（第1～2学年次生）の学生支援を目的に、ピアサポート制度を設け、公募により選出した上級生（第2～5学年次）がピアサポーターとなり、個別に学修支援や相談に応じている。

各科目の担当教員は、シラバスにオフィスアワーを明示して、学生個々の学修上の質問への対応を行っている。

また、学校保健安全法施行規則に定める学校において予防すべき感染症による出席停止や自然災害等による通学不可、妊娠・出産など特別な事情により授業を欠席する学生に対しては、講義録画・配信や実習については追実習（補習）を認めるなど、学生個々の事情に応じた支援策を講じている。

<薬学部・看護学部・リハビリテーション学部>

入学前教育については、アドミッションセンターを設置し、各学部における取り組みを統括している。

また、全学部・全学年において、学習状況や学習意欲を確認するための学修実態調査等を実施している。

薬学部においては薬学教育センターを設置し、薬学共用試験や薬剤師国家試験への総合的な対策だけでなく、高校から大学での勉強への橋渡し、分野横断的な教育、担当教員との仲立、補習講義などにも取り組んでいる。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

<医学部>

医学部では、教育プログラムの中で様々なキャリアガイダンスを行っており、第1学年次の「医学部へようこそ」では、本学の様々な分野の教員や本学同窓会「緑樹会」会長が、自身の体験を交えた講義を行い、医師としてのキャリアガイダンスやプランニングについて触れている。

第4学年次「医療入門」では、初期臨床研修制度について紹介するほか、医療刑務所の責任者等を講師として招き、様々な角度から医師としての立場を知ることによって、各自が医師としてのキャリアガイダンスとプランニングを考えることができるよう計画している。

また、特別講義として、『男女共同参画講義』を取り入れ、特に女性医師へのキャリア支援を周知している。

研究医コースの学生は、配属研究室の教員がマンツーマンでメンターとなり、研究指導だけではなく、学修の悩み、進路相談などにも対応している。また、医学教育センターや学生研究支援グループの教員が学生サポートを行っている。

地域枠推薦入学生に対しては、各学年で「地域医療特別演習」が必須科目となっており、夏季休暇期間を利用し、地域医療の現場での見学、体験を通じてキャリアガイダンスを行っている。

また、医学教育センター教員の個別面談等で学修上のカウンセリングを行う際は、学年を問わず、自らの医師としてのキャリアプランニングを意識させ、考えさせるよう適切に指導・助言を行っている。

<薬学部・看護学部・リハビリテーション学部>

キャリアデザインセンターでは、兵庫医科大学病院・ささやま医療センターや学校法人兵庫医科大学連携病院の会といった外部機関との連携、学部教員との連携による支援、学生に対するきめ細やかな個別相談・指導を軸として、高い就職内定率の実現に向けてキャリア形成支援及び就職支援を実施しています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

<医学部>

学生保健管理センターに西宮学生相談室、西宮学生保健室を設置し、学生の心身の健康増進を図っている。

学生相談室に専門の相談員を配置し、週4日午前10時～午後6時まで、学生からの相談を受け付けている。学生相談室の利用にあたっては、直接相談室へ行くことに加え、電話、テレビ電話、メールでの相談対応も可能であり、学生の利用のしやすさに配慮している。相談室で受けた面談の統計は毎月学生部委員会へ報告される。また、リーフレット「なごみ通信」を季刊し、学生・保護者へ配付、ホームページにも掲載している。学生相談員は、「学校法人兵庫医科大学ハラスメント防止等に関する規程」に則り、ハラスメント相談員を委嘱されており、ハラスメントに関する学生相談にも対応している。

学生保健室には専任の保健師を配置し、学生の健康維持のための定期健康診断や日常的な健康管理を行っている。毎年健康調査票を全学生に配付・回収し、アレルギー情報や大学での生活上で配慮が必要な情報を確認している。新入生には、心電図を含む心臓検診を実施している。

また、感染性疾患防止対策として、入学直後に麻疹、風疹、水痘、ムンプス抗体価検査とワクチン接種、臨床実習前にはB型肝炎抗体価検査とワクチン接種、結核対策としてのクオンティフェロン検査を行っており、これらは大学が費用を全額負担している。

さらに、インフルエンザワクチン接種（学生負担）も毎年実施している。学生ハンドブックには、針刺しなどの事故、COVID-19、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症などが発生した際の対応を掲載し、学生に周知している。

<薬学部・看護学部・リハビリテーション学部>

学生生活を心身とも健康で楽しく充実したものとするために、学生保健管理センターを設置し、体調の変化や心の悩みの相談に応じている。

学生保健管理センターは神戸学生保健室と神戸学生相談室の2部門で構成している。

学生保健室には、学校医3名と保健師4名を配置のうえ、利用時間を月～金曜日8:30～17:00とし、健康に関する支援を行っている。支援内容として、応急処置、休養、健康診断、抗体検査、ワクチン接種、学校感染症、相談、測定、健康診断証明書・抗体検査証明書の発行、健康教室などの活動を行っている。

学生相談室には、公認心理師・臨床心理士2名を配置のうえ、利用時間を月・火・木・金9:00～17:00とし、学生が抱える問題や悩みをともに考え、学生の気持ちの安定、整理、方向づけができるよう支援を行っている。相談内容として、精神・心理状態、人間関係、進路問題、コミュニケーションその他生活全般の問題に当たっている。

また、障がいのある学生の支援については、神戸キャンパス障がい学生支援小委員会を設置し、各学部と連携し、支援内容等を検討の上、当該支援を円滑に行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.hyo-med.ac.jp/about/information/ir/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F128310108892
学校名 (〇〇大学 等)	兵庫医科大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 兵庫医科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		164人（ ）人	159人（ ）人	-
内 訳	第Ⅰ区分	93人	88人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	43人	43人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	-	-	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	-	-	
区分外（多子世帯）		0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				-
合計（年間）				174人（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	11人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	11人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	-
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。